

# 父親・母親・子供の関係性から見た環境行動形成

氏名 別役 和

指導教員 小谷浩示

## 研究背景

気候変動対策には個人の環境配慮行動が重要であり、価値観や行動が形成される家庭、特に親から子供への影響が注目されている。しかし、父親を含めての「母親・父親・子供」で区別した家族全体の影響は研究されていない。

## 研究目的

本研究では父親および母親の両方に着目し、それぞれの影響の違いを明らかにすることを目的とする。リサーチクエスチョンとして「父親・母親・子供の間で生じる環境配慮行動の波及効果のうち、誰が最も強い影響力を持つのか、そして、どの程度、家庭での信念や認知は影響するのか?」、仮説として「母親は父親に比べて、家族への環境配慮行動の波及効果が大きく、その信念と認知も重要な決定要因である」と設定した。

## 研究方法

中学生以上の子供を持つ 55 世帯を対象にアンケート調査を実施し、社会人口学的属性環境配慮行動、第一信念、第二信念を収集し、回帰分析によって関係性を検証した。

## 分析結果

分析の結果、3つのことが分かった。1つ目は、父親の「飲料用ボトルの購入の抑制行動」と母親の「フードロス削減行動」が、子供の行動と正の相関を示した。2つ目は、夫婦間において母親の「消灯行動」が、父親の行動と正の相関を示した。3つ目は、母親の第二信念と子供のフードロス削減行動との間に正の相関が確認された。

## 結果・考察

母親の影響が常に父親より大きいとは言えないが、一部の行動において母親の行動および母親への第二信念が子供の行動にポジティブな影響を与えていた。